

---

# 夢の中で出来ること

慈有尊名

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢の中で出来ること

### 【Nコード】

N5877Z

### 【作者名】

慈有尊名

### 【あらすじ】

夢の中で何ができるか実験しています。

## 体の力を抜く

未知なるものを発見すること。それは、人類に与えられたひとつのベクトル。それをなす為、科学を代表とするさまざまな分野がある。小説を書くのもそのひとつかもしれない。未知なるストーリー、未知なるキャラクター。それを発見、創造することが、人類に与えられたひとつの課題なのである。

と、ここまで書いてなんだが、今回は小説のような空想ではなく、半分現実の話を書きたい。半分現実というのが何を表すのかといえ、タイトルにあるように、現実に見た「夢の中の話」なのである。「夢を研究すること」。これが、私のライフワークなのであるが、その一端をみなさまに紹介したいと思う。

もう、10年ぐらいこの研究をしているので、それなりに経験も積んだのだが、ここ数年はいいアイデアが思いつかず停滞して困っている。最近思いついた課題は、「人間でなくなること」である。具体的に、夢の中でどのように実験しているのか説明すると、まず、前提として「明晰夢」を見る必要がある。明晰夢を知らない人もいるかもしれないので、説明すると、夢の中で自分が夢を見ていると自覚している状態が明晰夢である。

その明晰夢を見たときに、何を実験しようと思っていたかを思い出して、それを実行することができたら、実験は成功したことになる。つまり、実験をするには二つのステップをクリアしないといけないということだ。ひとつは明晰夢をみること、もうひとつは何を実験しようと思っていたのかを思い出すことである。これが結構難しく、なかなか実験ははかどらない。

2011年12月19日に見た明晰夢を紹介する。その時、私はガラス戸越しに庭を見ていた。庭にはきれいに耕された畑が見えた。現実の家の庭にも家庭菜園の畑があるのだが、夢の中の畑は現実の畑よりきれいだった。それで、これが夢だとわかった。すると、少

し目が覚めそうになったのか、景色がぼやけてきた。私はガラス戸を開けて庭に出た。そこには腰の高さぐらいの木の切り株があった。私はその切り株を左手で触った。すると、夢になじんだのか視覚がはつきりとした。

今回は何の実験をしようと思っていたのかをすぐに思い出せたので、さっそく取り掛かった。意識を集中させるため、足を開いて腰を落として中腰になった。そして、両手を雪合戦のときに団子を作るように重ねて、手の中に10センチぐらいの空気の球があるイメージをして、意識を集中し、球を暖めるように気をそそいだ。しかし、これといって変化はなかった。

ちなみに、この実験は、体の気を手のひらに集めるように意識を集中したら、気持ちよくなれるかもしれないと思ってやった実験である。

その後、もうひとつ実験をした。それは、体の力を抜くという実験だった。体の力を抜くことに何の意味があるのかと思われるかもしれないが、それには理由があるのだ。実は夢の中の体は、力を入れれば硬くなり、抜くと軟らかくなるのだ。例えば、目の前に壁があったとしよう。拳に力を入れれば殴ることができるし、力を抜くと通り抜けることができる。つまり、力を込めると肉体の存在が濃くなり、抜くと存在が薄くなるのだ。

それで、体の力を抜いて何がしたかったのかと言えば、自分という存在を薄くして人間とは違うものになりたかったのだ。

で、どうなったのかといえば、私はゆっくりと息をはきながら体の力を抜いていった。すると、体がひざのあたりまで地面に沈んだ。更に力を抜くと体が横に倒れた。それだけだった。まあ、思ったようにいかないことが多い夢研究だ。そのうち思いもよらない発見もあるだろう。

## 人間は水中では呼吸できません

人間は、水の中に頭を入れたとき、呼吸できないということを本能的に思い出してしまふ。たとえ、夢の中だから呼吸しなくても死にはしないとしても、あせってパニックを起こしてしまふ。これは、呼吸しないと死んでしまふと思っっている人間の弱点だ。

この弱点を克服しようと思ひ、以前実験をしたことがある。それは、どうすれば水中でも呼吸ができるかを考えて、とりあえず、肺を膨らませたり萎めたりしたら、呼吸している気持ちになるのではないかと仮定した。それで、夢の中で実験として、口を閉じて鼻をつまみ、複式呼吸をしているように、お腹を膨らませたり引っ込めたりを繰り返してみた。結果、やはり息苦しかった。とても長時間は耐えられそうになかった。

まあ、夢の中なら水中でも呼吸できることもあるので、水中だからといってあせらずに行動すれば、対処できると思う。ただ、それは夢だとわかっていた場合の話であるが。

なぜ、こんな話をしたのかといえば、今日（2011年12月20日）見た夢で、水の中に入っていたからだ。

その時私は、車道の上に立っていた。すると目の前を400ccぐらいのバイクに乗った、緑色のグミのような身体をした人間みたいなものが走り抜けていった。それを見て、私はこれは夢だと思った。

さっそく実験をしようと思ひ、昨日と同じように、団子を手のひらで包むようにイメージし、意識を集中した。今回は、さらに集中力を高めようと思ひ、目を閉じておこなった。しかし、何も変化はなかった。

今度は、意識を胸の奥に集中した。これは、心というのが、頭の中にあるという説と、胸の奥にあるという説があるので、とりあえず、胸の奥にアクセスしてみようかと思っただからだ。しかし、これ

といった変化はなかった。

それで、また脱力の実験をしようと思い、身体のを抜いた。すると、30cmぐらいの深さの川に腹ばいで寝ているような感覚がした。目を閉じていたので、周りの状況は分からなかったが、身体に感じる感覚が、そんな感じだったのだ。

その時、水の中だったので、息ができないことを思い出した。しかし、普通に呼吸ができたので、夢の中だから水の中でも呼吸ができるのかと納得した。

昨日と今日の実験を通して分かったのは、身体のを抜くと寝転んでしまうということだ。私としては、身体がなくなること期待していたのだが。そして、人間でなくなってくれたら面白かったのに。

とりあえず、ただの脱力では何も起こりそうにないので、今度からは違う実験をしようと思う。今朝思いついたのは、他人との融合、もしくは寄生。方法としては、身体のを抜いて通行人に抱きついてみようと思う。融けて入り込む感じで。

## 宇宙に行く

空を飛べるのなら宇宙にも行ける。ただし、飛び方を変える必要がある。よつするに、空を飛ぶのが飛行機ならば、宇宙に行くのはロケットだ。

イメージでいえば、念力で自分を真上に持ち上げる感じだ。しかし、ここにひとつコツがある。人間はどこかに向かうとき、進行方向を見るといふ習性がある。だから、宇宙にいくのなら、空を見上げるのはあたりまえだ。普通ならそうするだろう。

だが、考えていただきたい。もし、真上を見ながら上昇したら、自分がどのくらいの高さにいるのかどうやってわかるというのだろうか。それに、なにもない宇宙空間を見ながら上昇することに、どれだけの感動があるのだろうか。

ということ、先ほど述べたコツというのは、地面、すなわち、地球を見ながら上昇することだ。まあ、空中なら障害物はないと思うので、安心して後ろ向きに進むことができると思う。もし、飛行機にぶつかったら御免なさいということだ。

あと、上昇するとき、もうひとつコツがある。それは、地面や町、日本列島、そして、地球が猛スピードで遠のいていくイメージをすることだ。このイメージがうまくいくことにより、大気圏を出ることがができる。

そして、次のステップに移るのだが、ここでひとつ問題が起こる。次のステップというのは、つまり、宇宙空間に出た後に、どこに向かって飛ぶのか目標を決めることなのだが、このときばかりは進行方向を向かざるをえない。

しかし、さつき述べた問題はここで発生する。それは、振り返るという動作は、体勢が大きく変わる動作なので、目覚めてしまう可能性が高いのだ。

そんな問題があり、私はこの振り返るといふ動作を好ましく思っ

ていなかったのだが、今朝見た夢で、この問題は解決されそうである。

その夢の中で、私はいつも通り大気圏を出たぐらいで振り返ろうとした。そして、振り返ったら目が覚めるかなと思ったとき、ひらめいた。それは、一気に振り返るからいけないんだということだ。

それで、まずは横を見て、そして後ろを向いた。つまり、180度の運動を90度2回に分けたのだ。これで、今回はうまく向きを変えることに成功した。おそらく、次回からはこの記憶が思い出され、うまく振り返ることができるだろう。

ところで、宇宙に行くのは夢があつていいとは思うが、実は退屈なことでもある。今日の夢では、宇宙空間に出たら真っ暗だった。星ぐらい輝いていてもいいと思うのだが、まあ、たとえ星が輝いていても退屈なのである。

なぜかといえば、宇宙に行く理由として、未知なるものを発見したいという思いがあるのだが、しかしながら、そう簡単には他の天体までたどり着けないのだ。ましてや、知的生命体がいるような惑星には。だから、暗黒の宇宙で目が覚めるまで漂っているという結果になる。

誰か、他の惑星に行く方法を知っている人がいたら教えてほしい。



## 夢の中に入る

明晰夢を見る方法はいくつかあるが、その中のひとつに、夢の中に入るという方法がある。どのようにするのかを説明すると、条件として、まず目覚める必要がある。できれば、夜明け前が望ましい。そして、布団の中で、身じろぎせず、目も開かず、そのままの状態を維持する。さらに、夢を見ようとイメージする。

夢を見るイメージというのは、たとえば、夢の続きを見ようと、先ほどまで見ていた夢を思い出したり、私の場合は、次に何かが見えたらそれは夢だと思いながら何か見えてくるのを待つ。そして、もしも何かが見えたなら、それは夢だ。

この布団の中で夢の中に入ろうとしている状態のとき、ある程度時間が経った後、起き上がってみるという方法もある。なぜそんなことをするのかといえば、実は、布団の中で寝ている夢を見ていることが結構あるのだ。今朝（2011年12月24日）見た夢もそんな夢だった。

その時私は、母親の呼ぶ声で目を覚ました。「○○ちゃん、○○ちゃん、ごはんよー」と、兄と私の名を呼ぶ母の声だった。そこは、私が小学4年から高校3年まで寝ていた実家のベッドの上だった。

私は起き上がると思ったのだが、あることを思い出した。それは、現実では、自分は一人暮らしをしていて、母が起こしに来るはずがないということだった。そのとき、一番に思ったのは、もし起きてもごはんはないし、自分で作らなければならないという、とても残念な気持ちだった。

それで、私は、もう一度寝ようと思った。どうせごはんはないし、そしてしばらく経ち、私はパツと起きて、ベッドから降りた。この時点で、私はこれが夢だと確信した。それは、現実ではベッドではなく、畳に布団を敷いて寝ているからだ。

この明晰夢の見かたには一つの欠点がある。それは、視覚が正常

に機能していないことがよくあることだ。場合によっては、真つ暗なこともある。さらに、悪いときは体が動かないこともある。それは、金縛りではなく、自分の体がないという感じた。

今朝の場合は、体はあつたし動かせた。しかし、視覚がぼやけていて、今にも目が覚めそうだった。それでも、そこが、実家の私が昔寝ていた部屋だとわかったので、どこに何があるのかはわかっていた。

私はとりあえず、台所の方へ行つた。それは、母がそこにいるだろうと思つたからだ。ドアを開けると、台所は薄暗かつたが、母と妹、そして誰かわからないが、もう一人いるのがわかつた。3人は私に背中を向けて朝ごはんの準備をしているようだった。

私は、台所には入らずに、外に出ようと思い、玄関に向かつた。外にでるとき、今日は靴を履かないで裸足で出してみようと考えた。特に理由はなかつたのだが。

そして、外に出て、庭の向こうにある原っぱに向かつた。この原っぱは現実では中学3年の時に家が建つてなくなったので、私にとっては、この原っぱがあるということが夢であることの象徴でもあるのだ。

それで、この原っぱに行けば、視覚がハッキリして完璧に夢の中に入れるのではないかと思つたのだ。そして、一步入つた瞬間に、まるで気を失うような感じに、頭の中がグラツとして目が覚めた。

こんな感じの夢だったので、実験をすることを忘れていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5877z/>

---

夢の中で出来ること

2011年12月24日10時46分発行